当院において眼の先天異常に対して眼鏡装用の治療を受けられた方 およびそのご家族の方へ

—「眼先天異常児の長期視力経過に関する後ろ向き観察研究」へご協力をお願い—

研究機関名およびその長の氏名：岡山大学病院 前田 嘉信

研究責任者：岡山大学病院眼科 松尾 俊彦

(岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 生体機能再生再建医学分野)

1) 研究の背景および目的

家族性滲出性硝子体網膜症、第一次硝子体過形成遺残など眼の先天異常をきたす疾患はまれです。先天異常による黄斑の低形成や視神経異常に対して対処法はありません。しかし、生後から8歳頃までの視覚が発達する幼少期にできるだけ視力が良くなることを目指して、毎年定期的に屈折検査を行い必要であれば弱視治療（弱視訓練）として矯正眼鏡をかけます。この研究では、岡山大学病院で経過観察を続けている方で、屈折矯正の実際を振り返り、今後の治療方針に関する情報を提供することを目的としています。

お子様へ

視力が育って少しでも良くなるように、小さい頃から眼科で視力を測ったり、眼鏡の度数を決める検査をしたりしています。どのように視力が育ってきたかを調べたいと思います。

2) 研究対象者

2000年1月1日～2023年12月31日の間に岡山大学病院眼科において眼の先天異常に対して眼鏡装用の治療を受けられた方20名を研究対象とします。

3) 研究期間

研究機関の長の許可日～2025年12月31日

情報の利用開始予定日：研究機関の長の許可日から1週間後

4) 研究方法

当院において眼の先天異常に対して眼鏡装用の治療を受けられた方で、研究者が診療情報をもとに眼科検査のデータを選び、先天異常の程度、眼鏡度数や最終視力に関する分析を行います。

5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用しますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・年齢、性別、診断名
- ・眼科検査：視力検査、屈折検査、眼底所見、眼底画像検査、矯正眼鏡処方

6) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学の生体機能再生再建医学分野研究室で保存します。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

7) 研究資金と利益相反

この研究は、特段の費用を要しないため特定の研究資金は用いません。この研究に関して利害関係が想定される事項はありません。

8) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方（ご家族の方等も拒否を申し出ることが出来る場合があります。詳細については下記の連絡先にお問い合わせください。）にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。ただし、すでにデータが解析され、個人を特定できない場合は情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・研究への利用を拒否する場合の連絡先>

岡山大学病院 眼科

氏名：松尾 俊彦

電話：086-235-7952（平日：9時00分～17時00分）